

「関東KAIZENフォーラム2013」開催

—未来へつなぐ確かな技術 高めて築こう
プロ意識 視点を変えて大きな改善—

情報通信エンジニアリング協会 関東支部

はじめに

昨年11月11日、東京都江戸川区のタワーホール船堀において、会員会社はじめ関係者約430名にお集まりいただき、関東KAIZENフォーラム2013を盛大に開催しました。

冒頭、石川國雄関東SKY運動推進本部長より開会挨拶がありました(写真1)。

「この関東KAIZENフォーラムは、昭和62年から数えて今回で27回目の開催を迎えました。その名の通り、業務の効率化と生産性の向上を目的とした関東支部の各社による改善施策の成果発表会として開催しています。

本日の発表においては、安全施工に関する取組みや作業時間の短縮といった、業務の効率化、生産性向上をテーマとした発表が予定されています。今回の特徴として、各社からの発表以外にさらに安全をテーマとしたプログラムを組み込んでいます。

私ども通信建設業界にとって安全はいかなる工事においても、何よりも優先すべき重要事項です。そこで今回は1つの人身事故がどれだけの影響を及ぼすかということを描いた安全ビデオをご覧ください。

また、「気象災害と安全」というテーマで特別講演を予定しております。昨今、記録的な猛暑に代表される異常気象、あるいはたびたびの竜

巻、台風の発生と被害が深刻になっています。例えば屋外を中心とした作業時にいかにして安全を確保することができるかということや、あるいは日常生活における安全についてご活用いただき、安全行動に努めていただきたいと思います。

NTT東日本様におかれましては、光ブロードバンドサービス、フレッツ光の契約数が先月1,000万契約を突破しました。これもひとえにNTT様の営業成果の賜物だと敬意を評しますとともに、一方私ども会員各社にとっても日頃から果すべき責務を確実に遂行し、日々の業務効率化や安全施工に熱心に取り組んできた努力の成果であると考えてよろしいかと思えます。会員各社におかれましては基本動作の徹底に務めながら、安全作業で工事を行っていたくことを基本に、日々の改善活動の定着が大きな成果を生み出し、その1つの成果が次なる新しい成果を

生み出す原動力となることを期待いたします。」

成果発表

鶴田 勉氏(協和エクシオ)、井上 綾子氏(池野通建)の司会により(写真2)、会員各社の予選で選ばれた代表7サークルおよび協賛発表2サークルによる成果発表が行われました(表1・写真3)。検査用写真整理業務の効率化から業務効率化物品の開発まで幅広いテーマで発表が行われ、会場からは熱心な質問が寄せられていました。

発表に続き、安全ビデオ『歩きたい 墜落・転落 —その意味するもの』の上映と最優秀標語の唱和が行われました。大会スローガンは池野通建の渡部孝一氏の「未来へつなぐ確かな技術 高めて築こう プロ意識 視点を変えて大きな改善」を、安全標語は協和エクシオの小田 仁氏の「再確認! みんなで定めた決まりとルール! 守るあなたが守られる!」を参加者全員で唱和しました(表2・写真4)。



写真1 石川本部長挨拶



写真2 成果発表司会



ミライト



池野通建



ミライト・テクノロジーズ



協和エクシオ



つうけん



和興エンジニアリング



日本コムシス



中央資材



協賛発表 三代川製作所

写真3 幅広いテーマでの成果発表

表2 標語入選作品

大会スローガン

応募作品	結果	会社	氏名
未来へつなぐ確かな技術 高めて築こうプロ意識 視点を変えて大きな改善	最優秀	池野通建(株)	渡部 孝一
創意工夫に終わりなし！新たな目線で改善提案	入選	(株)協和エクシオ	上野 一樹
変える意志こそ第一歩 変化を恐れず 結果を恐れず 皆で挑もうKAIZEN活動	入選	池野通建(株)	高橋 秀充
気付いたら心にしまわず提案を みんなでカイゼンより良い職場	入選	(株)つうけん	斉藤 隆幸

安全標語

応募作品	結果	会社	氏名
再確認！みんなで定めた決まりとルール！守るあなたが守られる！	最優秀	(株)協和エクシオ	小田 仁
慣れた作業に 危険あり！ 鉄則厳守で ゼロ災害！！	入選	(株)ミライト・テクノロジーズ	関口 智英
迷った時には再確認 やめる勇気があなたを守る 基本に戻って再確認	入選	日本コムシス(株)	椎名 隆之
みんなで確認 作業手順！ みんなで排除 近道行動！	入選	和興エンジニアリング(株)	水田 一行



写真4 標語の唱和

特別講演

気象キャスター・気象予報士の高田 斉様から「気象災害と安全」と題して特別講演をいただきました(写真5)。

高田 斉様はNHK総合テレビで主要なニュース番組の気象キャスターを歴任され、落ち着いたわかりやすい解説で長くNHK気象解説の中心的な役割を担われました。平成15年に日本気象協会をご勇退後、現在は株式会社ウイングに在籍し、フリーの気象キャスターとして若手気象予報士の指導育成に力を入れているなど、ご活躍されています。

昨年猛暑となった異常気象や竜巻、台風など我々の日常に関係の深いテーマである、「気象災害と安全」についてお話いただきました。

近年の気象災害

皆さんの仕事は天気によって左右されることが多々あると思いますが、それによるリスクを回避するためにはどう



写真5 高田先生特別講演

すればよいか。何が原因でいま何が起きているかを知り、どのように対応するかが非常に重要になります。

特に最近では極端な現象が非常に多くなっていることを実感されていると思います。

まず、雨についていえば、非常に短い時間に強い雨が降る傾向と集中豪雨が多くなっています。例えば1時間に50ミリ、80ミリ、場合によっては100ミリという雨が降ってきます。実際、雨が降っている中で作業されていて、昔に比べて雨粒が大きくなり顔に当たると痛いと感じる方も少なくないのではないのでしょうか。

台風についても、強い勢力のまま日本列島に近づいてくる状況が目立っています。また、暑さについても近年は夏が長く、1日の気温も非常に高くなり、1日中下がらず非常に作業の負担になっていると思われるます。

気象情報

このように極端な現象が多くなっていますが、気象庁では皆さんが対応できるようさまざまな情報を報道機関等を通じて流しています。それらを有効に使っていただきたいと思っています。

基本的なところでは、いろいろな現象が発生したときに発表される気象情報に始まり、特別警報、警報、注意報といった情報の活用があります。今年から設定されたのが特別警報で、重大な災害が起こるおそれ著しく大きいとみられるときに発表される警報です。警報とは重大な災害が起こるおそれがある場合に出され、注意報とは災害が起こるおそれがあるときに発表されます。気象情報は前もってそのような状況の注意を喚起するために発表されているのです。

安全に作業するために

では、皆さんの作業において、どういうことに注意すればよいでしょうか。まず、屋外での作業時に災害から身を守る対策としては、積乱雲に注意することです。それには気象情報のチェックが重要です。前日から当日までの予報がどのように変わってくるか、天気が下り坂なのか良くなるのか、雨が降るのか、雪が降るのか、風が吹くのか、それに加えて注意報、警報なども確認します。積乱雲を探すには「明日は大気の状態が不安定です」という気象キャスターの言葉がポイントです。

実際に皆さんが仕事をされるときには、目視、体感が重要です。黒い雲が出てきた場合にはある程度、作業を止める準備をしてもらいたいと思います。暗い雲が近づいてくると、当りが暗くなります。遠くで雷が鳴ったり、光っていれば、近づいてきている証拠です。また、急に冷たい風が吹いてきたときは、上空に冷たい空気が入ってきているということであり、それが降りてきます。このようなことを事務所でも現場でも、見たり体験したりした場合、注意信号です。

企業でも気象情報を確認する担当者を置いていただけると良いと思います。専任でなく当番制でもかまわないと思います。また、情報の伝達システムの充実という面では、全社員、事務所から現場に至るまで確実に情報を伝達できるシステムを作っただけだと良いと思います。

現場としては、常に携帯電話などでセンターと情報を共有したり、スマートフォンなどで気象情報を確認する方法があります。雷がなると雑音が出るため、携帯ラジオで雷をチェックするのも良いでしょう。

早めの避難と作業休止の判断とい

う点では、災害はあっという間に起こるので、会社に判断を仰ぐのではなく、現場のチーフの判断で止めることも必要となります。そのような判断をチーフが独断専行でやれるような雰囲気を作っていたいただければと思います。

マンホールの中であれば地上に上がる、平坦地で木のそばならば木から離れる、柱上であれば地上に降りるなど。自分の工事場所が、傾斜地なのか、平坦地なのか、水が流れこんでくる場所なのかどうかなども常に把握しておく必要があります。

具体的な対策は各社によって違うでしょうが、ぜひ災害・事故が少なくなるようにしていただきたい。そのためには自分の身は自分で守ると

いうことが重要です。自分は災害に遭わないという気持ちは捨てていただきたいと思います。

最後に、日本の天気予報は始めて129年ぐらいです。不確定要素もありますが、それでも80%以上の精度と言われているので、十分な利用価値には達しているだろうと思います。上手に利用して、事故のないように努めていただきたいと思います。

表彰式

特別講演に続き、発表9サークル、標語入選者（最優秀2名）に対し、石川國雄関東SKY運動推進本部長から感謝状・副賞の贈呈が行わ

れ、会場は大きな拍手に包まれました（写真6・7）。標語のとおり、プロ意識を持って決められたルールを守り、無事故で業務を進めていくことを誓い合い、関東KAIZENフォーラム2013は盛会のうちに終了しました。



写真6 表彰式



写真7 発表者記念撮影